

育む 地域知財

▼▼▼▼
④

現場を「軽労化」

小野谷機工（福井県越前市、三村健二社長、0778・222・2124）は、トラック・乗用車のタイヤ交換機で、タイヤ店の現場を「軽労化」する製品が好調だ。2017年発売の乗用車タイヤ交換機「EXCEED EDITION XX（エクシード・ダブルエックス）」は代表例の一品だ。

小野谷機工（福井県越前市）

タイヤ交換 独自技術磨く

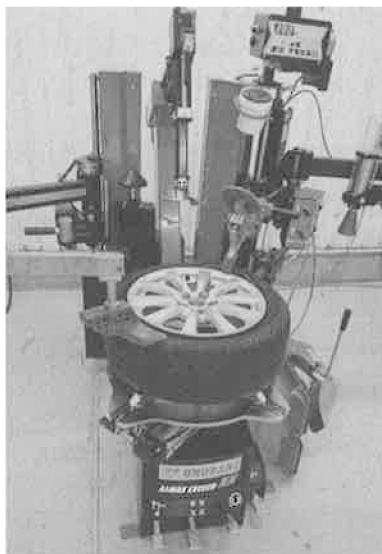
XXは従来機をベースを確実に押さえ作業する作業も可能。標準価格に計11件の特許を含む。従来は金属レバーを機能に付加した。操作はタイヤの縁に差し込み作半自動でアームの爪をタイヤの縁に押しやる。近イヤ縁に差し込み、機械年の扁平タイヤは側面のでめくり上げホイールか剛性が上がり、かなりの外す。組み込みも新方式の複数アームでタイヤ重労働だ。

XXは従来の人カレバ

会会長賞に選ばれた。

商品開発委で戦略

かねて知財戦略を強化してきた小野谷機工。定評ある特許活用、開発を



軽労化を進めて11件の特許技術を盛り込んだ乗用車用タイヤチェンジャー「EXCEED-XX」

5年前から一段強化しており、その事情を宇田公郎常務は「タイヤ店の熟練社員が減り、売れ筋ががらっと変わったことが背景」と話す。

現場で軽労や安全性が新たなキーワードにな

り、ニーズ把握、商品化の速度がより重要になった。

新設した商品開発委員会、役員・営業・企画で、開発・製造のメンバーが毎月集合。開発決定機関として知財取得技術の見定めや試作品評価、量産決定などを判断。その一環で、特許の新機能はカタログに明示するようにし、またニーズ先読みの精度も高めようと、展示会でコンセプト機の出品も始めた。

（水曜日に掲載）

メモ

タイヤの交換機、パランサーなどタイヤサービス機器で唯一の国内メーカー。乗用車用は低価格の海外製品などとの競合が激しい。